

## トルコ・シリア地震被災者支援 ～想いを届けて～

「目の前のアパートが崩れ落ちるのを目撃し、慌てて靴も履かずに飛び出した」——2023年2月6日、トルコ南東部のシリア国境地域でマグニチュード7.8の地震が発生しました。まだ多くの人が寝ている夜明け前の時間でした。この地震によりトルコ・シリア両国合わせて死者は5万6千人以上、被災者は1700万人に上ります。100万軒近くの家屋が倒壊するなど甚大な被害が確認され、発災から3か月経ってもおよそ300万人がテントでの避難生活を余儀なくされています。キッチンやトイレなど生活に必要な設備が整っていないテントでの生活は被災者の身体的にも精神的にも負担になっています。

パルシクは、発災翌日から寄付を呼びかけ、被災地の一つトルコのガジアンテップに職員を派遣し、これまでの活動で培ってきた人の繋がりや知見を活かして緊急支援を開始しました。被災地のトルコ南東部は、150万人を超えるシリア難民が暮らしています。IDカード（トルコでの身分証）を持っていないため政府の支援を受けられないなど様々な事情で支援が届きにくい人、地震の規模が広範囲にわたり政府の支援が追いついていない地域を中心に、食料や生活用品などの必要な物資を届

地震により崩れたビル(トルコ・カフラマンマラシュ県)



上…テントで避難生活を続けるシリア難民世帯(トルコ)  
左…食料配付の様子(トルコ)

けました。発災直後はまだ雪が道に残り、とても寒い中、多くの人がマスクや公共施設、車の中で寒さをしのいでいました。そのため、マットレスや毛布などの防寒具の要望が多くありました。また、シリアにおいても、提携団体を通じて医療品の調達、ストープや衛生用品、食料バスケットの配付を行いました。提携団体のスタッフから「この地震に対して、日本の皆さんが私たちと一緒に立ち上がってくれたことを心より感謝しています。この地震はトルコとシリアで甚大な被害をもたらしました。トルコの被害の方が大きいですが、トルコは多くの国から国際支援が入る一方、支援の難しさからシリアに対する支援は小さく、全てのニーズに応えることができません。引き続き皆さんに心を寄せていただけると嬉しいです」というメッセージが届いています。まだまだ復興には長い時間がかかりますが、被災者たちの当たり前の生活が一日でも早く戻るように、トルコ・シリア両国の復興に向けていきます。

（大野木）

（この事業は、皆さまからのご寄付とジャパ・プラットフォームの助成で実施しています。）

目次	トルコ・シリア 地震被災者支援～想いを届けて～…… 1	ロナ禍以降のPIFWAの活動/国際教育 夏のフィールドワーク準備中!…… 5
	東ティモール 切り花栽培から子どもの栄養改善へ/ミャンマー 終わらない暴力、不服従の抵抗…… 2	フェアトレード コーヒー/フェアトレード 日々のこと/ ちょっと寄り道♪フェアトレードなひと…… 6
	レバノン 暖かな教室で学びを深める/シリア 収穫が待ち遠しい、食糧生産支援…… 3	レバノン オリーブオイル/スリランカ サリーのエコバッグ/ Event Report 世界フェアトレード・デー・なごや…… 7
	パレスチナ ガザ 搾乳機で毎日新鮮な羊乳を。空爆の影響/西岸地区 広がるごみ問題への取り組み…… 4	パルシクからのお知らせ 国際協力・フェアトレードの活動にあなとも参加しませんか?…… 8
	みんかふえ 地域に開かれた居場所を目指して/マレーシア コ	

■東ティモール 切り花栽培から子どもの栄養改善へ

2023年3月から、新事業「女性の生計向上を通じた子ども栄養改善事業」を開始しました。相対的に子どもの栄養状態がよくないアイレウ県、アイナ口県、エルメラ県の山間部農村において、女性グループとともに花卉栽培に挑戦し、その収入による家庭での食事の改善、子どもの栄養改善を目指します。

東ティモールでは、キリスト教の祭事などで切り花は生活に欠かせないものですが、国内で商業用に栽培される良質な切り花はなく、隣国インドネシアから空輸で運ばれた花が高値で販売されています。切り花への需要は高く、バラや菊など、少しずつ商業用に栽培する人たちが

増えてきています。しかし、10年以上の経験があるリキサ県の企業を

除くと規模はとも小ざく、適切な栽培方法も普及していないため、インドネシアの切り花に代わるまでの品質と量には届いていません。事業1年目は気候や地理的条件の似ているインドネシアの専門家から花卉栽培の技術を学び、各地域でモデル農園を選定し、水環境の整備と各地域の気候に合った品種の特定をしながら、



花卉栽培と並行して、子どもたちへの身体測定と栄養状態を確認している

人びとの声

キタさん

(アイレウ県女性グループ)

新しい花の栽培技術を習得して、グループで菊の栽培を開始できることが楽しみです。アンスリウムなどは栽培してきた経験があり、栽培量も増やしているので、市場に出して収入につながるようにしていきたいです。また、アイレウ県は依然として子どもの栄養状態が良くない地域であることがデータで示されているので、栄養ワークショップにはぜひ近隣地域の人たちも参加してほしいです。



丹精込めて育てたアンスリウムとキタさん(左端)

(林知美)

この事業は、日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからの寄付で実施しています。

■ミャンマー 終わらない暴力、不服従の抵抗

2021年2月のクーデター後、国軍の暴力に反対する地域の公立学校の多くは休校となりました。その地域では今、職を失った教師たちがボランティアで授

国内避難民の増加により急ぎよ建てられた学校で学ぶ子どもたち



業をしています。パルシックは給与代わりの報酬を支払うことで教師たちの生活を支え、子どもたちが継続して教育を受けられる環境づくりをしています。公教育を受けられない子どもたちにより質の高い授業を提供したいという教師たちの熱い思いを受け、今年4月と5月には教師研修も実施しました。

ミャンマーでは今も空爆や戦闘が頻発に起こり、多くの人が家を追われています。国内避難民は149万人を超えました。パルシックは新たに国内避難民となった人も含め、生活が少しでも楽になるよう、食料を配付しています。

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからの寄付で実施しています。)

人びとの声

食料を受け取った元大学生のTさん

国軍による非人道的な暴力行為が、毎日、毎時間、毎秒、行われ続けています。国軍は、非武装で抵抗する市民の家やあらゆる財産をブルドーザーで破壊し、罪のない家族を強制的に逮捕しています。4月には、私が生まれ育った家も破壊されました。祖父が建て、かつて私が喜んで暮らし、思い出の詰まった家です。私はずっと非武装で抵抗しており、武力紛争とは全く関係ありません。しかし私の家族は逮捕され、家は破壊されました。国軍は、何でもできることを私たちに見せつけたいのです。どんなに醜いことでも彼らは躊躇なくやります。状況を好転させるための答えを見つけれないのが悔しいです。私たちの苦しみは、より良いミャンマーに変わるための、かけがえない犠牲として、春の革命(国軍クーデターに抵抗する市民の運動)の歴史に残るでしょう。



国軍により破壊されたTさんの家

## ■レバノン 暖かな教室で学びを深める

近代史上最悪の経済危機と言われる事態に陥るレバノン。首都ベイルートから約120キロ離れた北部の町アルサール市で、パルシックはアルヌール私立学校の空き教室を借りて、6〜14歳のシリア難民の子どもたちへの教育支援を実施しています。

アルヌール校では昨年12月から新学期が始まり、生徒たちは毎日元気に学校に通い、積極的に授業に参加しています。歌やゲームを織り交ぜて楽しく学べるよ

### 人びとの声

アルサール市の私立学校に通う6年生の女子生徒が、暖房用ストーブについてインタビューに答えてくれました。

「アルサール市は非常に寒い地域です。私は学校から少し離れた難民キャンプで暮らしていますが、特に夜は冷えます。学校の教室では、灯油ストーブが暖かく燃えていて、私たちをいつも温めてくれてます」。



暖房用のストーブを囲んで授業を受ける生徒たち

標高約1500メートルの山間部に位置するアルサール市。生徒たちは厳しい冬を乗り越え、無事に春を迎えることができました。

う、自身もシ

リア難民である先生たちも授業内容に日々工夫を凝らしています。

パルシック

は2022年10月から20

23年2月にかけて、この学校に暖房用の灯油を届けるための越冬支援の寄付キ

ャンペーンを行い、183万6千円

の温かいご寄付が集まりました。このご支援により、シリア難民とレバ

ノン人の子どもたちが学ぶ全29教室に、3か月分相当のストーブ用の灯

油を配付することが叶いました。また、物価の高騰により灯油の購入が

困難であった同市の他の5つの私立学校にも、寒さの厳しい時期に約2

週間分の灯油を配付しました。

外は雪が積もり、マイナス4度まで冷え込む極寒の中でも、教室内は

ストーブのお陰で暖かく、子どもたちはほっとした様子で、集中して授

業を受けることができましたようです。

(佐藤)

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

文房具とカバンのセットを受け取る様子



## ■シリア 収穫が待ち遠しい、食糧生産支援

2022年は、シリアで人道支援を必要とする人が全人口の7割の1530万人となり、2011年のシリア危機以来最大となりました。武力紛争自体は収まってきているものの、2020年から続く経済制裁や、経済的結びつきの強いレバノンの経済危機、そしてウクライナ危機等に伴う貨幣価値の暴落と物価高騰の影響を強く受けています。基本的な食品

の価格は2020年1月から2023年3月の3年間で13倍以上に高騰。深刻な

食糧不足に陥っています。紛争のため農地は荒廃し、農機具は破壊や盗難にあつ

たり、生活のために農地が売却等で失われたりしました。種や肥料、燃料の価格

も高騰し、小麦の生産量はシリア危機前の4分の1にまで減少しています。

### 人びとの声

オリブ農家のマナーさんは、ここ数年ほとんどオリブの木の世話ができず、収穫量が落ち込んでいました。そこで2022年秋から一緒に剪定、水やり、質の高い

肥料や農薬の散布等の支援を行ってきました。最初はなかなか結果が出ずに木を全部切ってしまうおうかと言っていたことも。しかしこの4月になって遂に木からたくさん

の新芽が！「おかげさまで木が生き返ってきました。今年はいくさんの収穫がありそうです。支援がなければこんなことはあり得ませんでした」。

オリブの木にたくさんの花がついている様子



青々と育った小麦畑に虫よけを散布している



そうした中、パルシックは2020年からシリア国内で農業支援を実施してきます。2023年5月現在、ホームズ県で農

家が小麦や野菜の栽培やオリブの生産が再開できるよう資材面と技術面で支援しています。

また、女性が稼ぎの担い手となっている世帯に対してヨーグルトなどの加工食品の生産支援や

養鶏の支援を行っています。事業終了後も農家が自力で農業を

続けられるよう、必要な資材を提供し、技術指導も行います。

今シーズンの小麦やオリブの生育状況は順調です。(風間)

(風間)

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

## ■ガザ 搾乳機で毎日新鮮な羊乳を。空爆の影響

2022年3月に開始した「ガザ地区ハン・ユニス県における羊の畜産支援」事業は、2023年3月より2年目が始まりました。この事業ではガザ地区南部のハン・ユニス県で、小規模羊農家の生計向上と女性のエンパワメントを目指しています。2年目は、1年目の事業地であるアル・マワーシ村とアル・マナーラ村の計50世帯に加えて、新たにアル・カララ村から20世帯を選定して事業を拡大します。

4月には1年目から参加をしている50世帯に手動搾乳機を配付しました。搾乳機を初めて使う人も、徐々に慣れて楽しんでいきます。搾乳した羊乳は、自家用にしたり、前年度に実施したワークショップで習ったチーズ作りを実践して販売したりしています。また前期事業で支援した女性組合が運営するチーズ工場にも羊乳を定期的に販売しています。

5月にはイスラエル軍とガザの抵抗勢力間で衝突が起き、ハン・ユニス県も空



搾乳機を使って搾乳するヌジウドさん

### 人びとの声

アル・マナーラ村の参加者ヌジウドさん

手動搾乳機をいただき、毎日夫と共同作業で搾乳をしています。搾乳機を使い始めたことで、以前より早く搾乳ができるようになり、衛生面も向上しました。私たちの羊乳は、自分でエサや薬も与えているため安心で、他の農家の羊乳よりも濃厚でミネラルが豊富と感じます。以前は他の農家から羊乳を買っていましたが、水でかさ増しされていることもありましたが、子どもたちは100%ピュアで美味しいと言って、自家製の羊乳を好んで飲んでいきます。



家族の一員である羊とヌジウドさんご家族

爆を受けました。新たな20世帯を選ぶべくアル・カララ村の参加希望者の羊の飼育状況と羊小屋の確認を行っていました。現在、活動は中断を余儀なくされています。5月17日現在、この事業に関するすべての人の安全を確認できておりませんが、今後も安全第一でプロセスを進めていきます。

(吉田)

(この事業は、日本NGO無償連携資金協力および連合・愛のカンパ中央助成と皆さまからの寄付で実施しています。)

## ■西岸地区 広がるごみ問題への取り組み

パレスチナ西岸地区の北アシーラ町で実施している循環型社会形成事業では、ごみの埋め立てを減らすため、地域の家庭やお店から出る生ごみを利用して堆肥を作り、有機農業を広める取り組みをしています。この堆肥をオリーブ畑に施した地域の農家が、昨年秋の収穫期に品質・収穫量ともに向上したことで堆肥の効果を実感し、同地域のオリーブ農家に限らず、他の地域の農家や種苗会社、農家

### 人びとの声

ごみの分別回収に参加するアフマドさん (八百屋経営)

北アシーラ町で八百屋「アッシュヤム」を経営しています。2018年に兄弟と一緒に関店しました。北アシーラで一番大きく、お客さんがひっきりなしに来る人気店なんです。大量の野菜くずや売れ残り、プラスチックや段ボールを分別するのは手間がかかりますが、堆肥の材料として再利用されるのとても良いことだと思ひ、続けています。西



「アッシュヤム」にてアフマドさん

岸で流通している野菜や果物の多くは農薬を大量に使っているのです。八百屋として、お客さんに安全な野菜を提供したいです。



教員のストライキが本格化する前に実施した環境クラブ活動の様子。堆肥の効果を検証するための温室で、シヨウガとウコンの栽培の様子を見学し、収穫体験をした。

組合からも問い合わせがくるようになりました。堆肥の販路の拡大とともに、北アシーラでのごみ問題への取り組みに、他の地域からも関心が寄せられています。一方、昨年後半から西岸地区での治安状況、経済状況が悪化しています。2023年1月から5月4日現在までに、西岸地区でイスラエル軍や違法入植者によって殺されたパレスチナ人は既に100人(子ども20人を含む)を超えています。衝突が起ると人の移動が制限されるため、予定していた堆肥学校の開催中止を余儀なくされました。また、経済状況の悪化が影響して、教員がストライキを続けているため、地域の学校の生徒と実施している環境クラブの活動も延期が続いています。

(高橋)

(この事業は、地球環境基金の助成と皆さまからの寄付で実施しています。)

■地域に開かれた居場所を目指して

東京都葛飾区白鳥地区にコミュニティカフェ「みんなかふえ」を開設して6年目を迎えました。コロナ禍を経て、昨年からカフェやみんなかふえ食堂、イベントなどの人が集まる居場所づくりを再開し、徐々にみんなかふえを訪れる方々が増えてきました。ボランティアからみんなかふえをもっとこういう風にしていきたいという提案やイベントの企画が出されるなど、うれしい変化も起こっています。

5月からは、カフェの営業日にランチと焼き菓子の提供を始めました。これまでコーヒーだけ飲んでサッと帰っていたお客さんいわく「コーヒーを飲みに来たのに、美味しい匂いに誘われて思わずランチを注文してしまった」と、評判も上々です。一方で「何をやっているところ



ボランティア企画の「みんなで楽しむコンサート」イベントは、子どもも大人も楽しめる選曲で盛り上がった

人びとの声



みんなかふえボランティアの  
岩元修一さん

自宅から歩いて行けるところがあるので、自分の居場所になればボランティアをはじめました。家で一人でランチをしたくない時は、カフェのお客さんとしてみんなかふえに行きます。行くようになってから初めて地元で友だちができました。それから知り合いがどんどん増えるのが不思議です。今カフェは週3日の営業ですが、地域の方がいつでも行けるみんなかふえになればいいと思います。葛飾区は海外ルーツの人が多く、私もみんなかふえで出会って仲良くなれたらいいなと思っています。

ろか分かりにくくて、なんとなく入りづらい」という声もあり、みんなかふえが誰でも気軽に来られる場になること、みんなかふえを知ってもらうことが目下の課題です。

まだまだできること、できていないことはたくさんありますが、活動を通じてボランティアや訪れた人が知り合い、談笑する姿を見ると、みんなかふえが目指している人と人とが繋がる場に少しずつ近づいていると感じます。2023年度はより地域に開かれた居場所を目指して、活動を広げていきます。

（この事業は、ニッセイ財団、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

（小栗清香）

■マレーシア コロナ禍以降のPIFWAの活動

2022年8月に2年ぶりに訪れたスガイ・アチエ村。村の中にあるPIFWA（ペナン沿岸漁民福利協会）が運営するマングローブ植林教育センターの周囲は、動物たち、特に猿たちの住家となり賑やかですが、建物を荒らされ修繕の必要がありました。女性たちは、ジャムやお茶に続き、マングローブジュースを政府機関と共同で開発し、販売を試みています。頻発する洪水や土砂崩れなどで、ペナン島の埋立地開発の環境アセスメントが許可され、漁業への影響が懸念されています。PIFWAはこれまでに、のべ30万本のマングローブを植樹し、ペ

ナン州のマングローブ保全に大きく貢献してきました。しかし、PIFWAがかつて植林した地域も再び伐採され、マングローブ林は消滅し始めています。刻々と変化する社会環境とともに、PIFWAの活動も再考する時期にきています。

（大塚照代）

（この事業は、イオン環境財団の助成と皆さまのご寄付で実施しています。）

■国際教育 夏のフィールドワーク準備中！

新年度が始まり、高校や大学の担当の先生と今年度の教育プログラムについての打ち合わせを始めています。夏のマレーシアでのフィールドワークは、3校の大学と調整中ですが、過去3年間自由に海外渡航ができなかったこともあってか、今年度は例年よりも申し込みが多く、参加者が増えそうです。「実際に現地を訪問してみたい」、「コロナ禍ではできなかった体験をしたい」という学生の期待が伝わってきます。他方、今年もオンライン

でのフィールドワークを1校で実施予定です。

出前授業でも、

オンラインと対面の両方のご依頼をいただいています。

今後は実際の現地

訪問や対面授業を中心としつつも、オンラインでの国際教育のプログラムも続けたいと思います。

（西森光子）



青山学院大学で講義する伊藤淳子（東ティモール事務所代表）



植林活動に参加したマレーシアの大学生たち。植林教育センターにはふたたび多くの人が訪れている

from  
Lebanon

## レバノンから味わい豊かなオリーブオイルをお届けします

まもなくレバノン産オリーブオイルの販売を開始します。レバノンは2020年からの新型コロナウイルス感染拡大に加え、2019年末から始まった経済危機が未だ改善の見通しが立たず、2023年4月時点で、通貨価値が2019年比で67分の1に暴落。差し迫った食糧不足の状態にある人びとはシリア難民で88%、レバノン人でも80%に上っています。国内の購買力が下がる中、ロシアのウクライナ侵攻の影響も重なり、高騰するコストに苦しみ、農業活動を縮小する農家も増えています。そしてこうした経済状況のしわ寄せは、実際に農作業を担い、より脆弱な立場にあるシリア難民に、低賃金労働といった形で表れています。

今回のオリーブオイルは、レバノン南部ハスパイヤ村のオリーブ農家の協同組合が、イタリアとレバノンのNGOの支援の下、生産したものです。農作業を担うシリア人にも正当な賃金を支払い、農家にも必要な対価を考慮した金額で買い取るため、レバノン人農家やシリア難民の人びとの支援にもつながります。

ハスパイヤ村は、ヘルモン山の麓、標高約750mの山中に位置し、キリストが通ったとされる樹齢4000年のオリーブの木々が残る一方、一時イスラエルの占領下におかれるなど複雑な歴史をもちつつも、古くからオリーブが栽培されてきました。

そんな土地で100%栽培・収穫・ボトル詰めされたオリーブオイルの味は豊かなオリーブの香りと、甘みの後にくるピリッとした辛味が特徴です。この地域の歴史や自然、人びとに想いを馳せながらお召し上がり下さい。

2023年7月頃  
販売予定！  
ぜひご期待



▼美しいオリーブの木が広がるハスパイヤの山



\*このオリーブオイルは、レバノン経済危機への緊急支援として輸入します。

オリーブオイルといえば、地中海地域の料理で使われるイメージがありますが、意外にも普段日本で食べられている料理とも相性抜群！仕上げにお好みの量をかけお召し上がりください。



おすすめの食べ方

- 1 **カレー**：オリーブオイルの旨味が加わり、普通のカレーがまるで三ツ星レストランのようなリッチな味に。これ無しではカレーを食べられなくなるかも。
- 2 **味噌汁**：いつもの味噌汁が洋風に変化。オリーブオイルの爽やかな香りに癒されます。
- 3 **チョコレートブラウニー**：ブラウニーの甘みとオリーブオイルの苦みが絶妙なハーモニー。味に深みが出ます。

他の日本食との組み合わせも是非お試しあれ

from  
Sri Lanka

## ラッキーバッグのお礼とご報告

スリランカへの寄付つきサリーのラッキーバッグをご購入下さり、ありがとうございました。ラッキーバッグ販売を含めたご寄付の総額は合計844,350円となり、現地に支援物資を届けることができました。北部の漁村トゥンプライの女性は、経済状況は以前に比べて良くなったといいますが、物価は依然として高いまです。

ラッキーバッグの販売は終了しますが、北部の女性たちがつくるエコバッグは引き続き販売しています。

お米の価格推移 (1kg当たり)

2021年	Rs. 80
2022年	Rs.250
2023年5月現在	Rs.240



エコバッグ製作に取り組む北部の女性たち

### Event Report

## 世界フェアトレード・デー・なごやトークステージでお話ししました！

「フェアトレードを生活にブレンドしよう」をキャッチコピーに開催された、世界フェアトレード・デー・なごや。トークステージでの登壇にお声がけいただき、フェアトレード部の赤井と嘉村が会場でお話ししました。トークのテーマは「1杯のコーヒーでつながる話～東ティモールコーヒーとフェアトレード～」。2人ともコロナ禍に入職したこともあり、ようやくお客さまやパルシック会員の方、フェアトレード関係者の方たちとお会いできました。お互いの情報交換や今後の展望などの話題は尽きず、フェアトレードの広がりの可能性を実感できる、とても貴重な機会となりました。



天気に恵まれ、オープンエアの気持ちの良いステージで、多くの方にお話を聞いていただきました！



## 温暖化が進む中、コーヒー生産者の新たな試み

パルシックのフェアトレードコーヒー産地、東ティモールでは、雨季と乾季のサイクルが崩れ、気温上昇により標高1,000メートルあたりでアラビカ種の生育異常が発生するなど、気候変動の影響が徐々に表れています。品種改良などの研究機関がまだない東ティモールで、非石油輸出高の8割を占めるコーヒーをこれからも作り続けていくために、官民が一体となってさまざまな工夫を始めています。

パルシックは、2009年から協働するエルメラ県の青年組合コハルとともに、ロブスタ種のアナエロビック（＝嫌気性発酵）製法を試みます。味が固いといわれるロブスタ種でありながら、独特の甘い後味を持つ東ティモールのロブスタ種を、もっと広くたくさんの人に知ってもらい、温暖化が進む中でも栽培可能な作物の選択肢を、ひとつでも多く東ティモールの生産者たちに提供します。



コハル組合の皆さん

### パルシックの フェアトレード商品

対等な交易を通じて、人と人のつながりと信頼を広げていくことこそが紛争の抑制、平和の形成に寄与すると考え、「商品の生産、流通、消費などが、市場の価格だけに依存するのではなく、人間的な交流と信用に基づく」という取引のかたちを目指して、直接的な交流、交易を重視しています。

### フェアトレード 日々のこと

2023年2月、2002年のカフェ・ティモール発売以来はじめての値上げをしました。

日常的に飲んでいたきたいカフェ・ティモールなので、できるだけ多くの方に手に取っていただきやすい価格を追求してきました。しかしながら原料の生豆、焙煎費用、包材、運賃、製造に関わるほぼ全てのものがこの数年間で値上がりとなり、100円の値上げに踏み込みました。生産者をはじめ、商品づくりに関わってくださっている方々にとってのフェアな価格とは何か、またお客さまにとって本当に価値のある商品とは何か今後も考え続けます。

2023年3月にはフェアトレード部の手元に、いくつかの包材サンプルが届きました。カフェ・ティモールの新パッケージのデザイン案です。この間、できるだけ環境への負荷の少ない包材へ切り替えようと模索してきました。いまだ、石油由来の素材を100%使わず、焙煎されたコーヒーの品質を保持できるような包材を見つけることはできていませんが、まずはプラスチックの使用料を減らすことを目的に新パッケージの準備をしています。デザインも刷新の予定ですので、お楽しみにお待ちください。

\*  
ParMarcheのコラム「日々のこと」も発信中です。ぜひご覧ください。



今年からパルマルシェで販売している「エルメラ炒りピーナッツ」。エルメラって何だろう？と思う方もいますよね。実は、東ティモールにある1つの県名なんです。この商品を作っているのは元パルシックで職員として活動した栗栖さんと、その夫のマイアさん。現在は、広島県安芸高田市にて、自然農法で落花生の栽培・加工を手掛けています。マイアさんの出身地「エルメラ」を屋号に、原料の生産から商品化までを自分たちの手で担い、生産者の顔が見え、それを購入していただける方と繋がることのできる商品作りを目指しています。

収穫は毎年10月ごろ。殻付きのまま保存し、出荷に応じて鉄鍋で丁寧に焙煎しています。香ばしい薄皮ごと食べるのがおすすめです。ぜひこの夏のコーヒーやビールのおともに。



#### ERMERA (エルメラ)炒りピーナッツ

原材料：落花生(安芸高田市産・千葉半立種)、食塩  
価格：356円(税込) (30g)



栗栖さんとマイアさん

## 国際協力・フェアトレードの活動にあなたも参加しませんか？

コロナ禍でしばらくお休みしていたボランティアやインターンの募集を再開しています。  
関わり方は人それぞれ。学校やお仕事の隙間時間、お休みや充電期間に何かしたい、  
NGOに興味がある、コーヒーが好き、外国語を役に立てたい…、どんな方でも大歓迎です！

### ■ 個人で .....

東京事務所では、フェアトレード商品の検品をしたり、ラベルを貼ったり。絵が得意な方にはPOPを作ってもらったりしています。イベントのあるときには準備から、当日の運営まで携わっていただくこともあります。また、国際協力事業では、パルシックの各活動地から届くさまざまな資料を整理したり、報告会の開催レポートを書いたりしていただきます。



5月20日に開催した「東ティモールのこれから～独立記念日に日本と東ティモールで考える」でもボランティアさんが活躍

### ■ 学校・企業で .....

コロナ禍を経て、学校では学園祭やチャリティイベントでフェアトレード商品を販売していただいています。企業ではSDGs達成への取り組みの1つとして、フェアトレード商品の販売にかかる一部の作業や、社屋での商品販売のほか、パルシックの活動地での協業に取り組んでいただいています。



企業での社内販売会の様子

募集中

#### 東京事務所 インターン

長期(6か月以上が目安)で週1回以上、活動が可能なお方。パルシックの活動を通じて学びたいことがある方。年齢不問です！

詳細はこちら↓

<https://www.parcic.org/news/11623/>

#### 東京事務所 ボランティア

東京事務所での事務作業のお手伝いをしていただける方。平日、数時間。1日のみ、複数日、ともに大歓迎です！

詳細はこちら↓

<https://www.parcic.org/news/12139/>

## 皆さまのご支援によって支えられています

### パルシックサポーター

パルシックの活動に参加したいけれど何をしたら良いかわからない、時間がとれなくてボランティアに参加できない、という方はぜひサポーターになってパルシックを支えてください。

#### ▶ サポーター会費

- 月々 500円コース
- 月々 1,000円コース
- 月々 3,000円コース

※サポーター会費、寄付は寄付金控除の対象となります。

### パルシック会員

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

#### ▶ 年会費 会員：10,000円／賛助会員：20,000円

※入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付でパルシックの活動を支えてください。

事業地を指定してご寄付いただくこともできます。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

- クレジットカードでの寄付 (Webサイトより)  
<https://www.parcic.org/donation/donate/>
- 郵便局からの寄付 郵便振替口座：00140-8-536957  
口座名義：パルシック
- 銀行からの寄付 三井住友銀行 神田支店(普) 2384136  
口座名義：特定非営利活動法人パルシック

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

サポーター・寄付ページ QRコード

